身体抑制廃止に対する取り組みがインシデント・アクシデント件数に及ぼした影響

高橋 陽子¹⁾ 河端 裕美¹⁾ 清水 みどり¹⁾ 齋藤 喜恵子²⁾ 美原 盤³⁾

1) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 看護部

2) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 医療安全管理室

3) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 院長

[はじめに]当院看護部では、平成30年2月より身体抑制を完全に廃止に対する取り組みを開始した。身体抑制は患者の安全を守る方法として使われてきたが、身体抑制廃止の取り組みがインシデント・アクシデント件数にどのように影響しているのか検討した。

[方法]身体抑制廃止取り組み前(取り組み前：平成29年1月～平成29年5月)と身体抑制廃止取り組み後(取り組み後：平成30年1月～平成30年5月)における身体抑制件数とルート関連および転倒転落のインシデント・アクシデント件数を調査した。

[結果]取り組みにより身体抑制件数は著しく減少したが、ルート関連報告件数は増加していた。一方、転倒転落件数は減少していた。レベル3b以上のアクシデントの発生はなかった。

[結語]身体抑制廃止は、必ずしも患者の安全を損なうものではないことが示された。安全なケアとは何かを明確にし、身体抑制廃止を実践することが望まれる。